

修士論文（要旨）  
2008年7月

在日ミャンマー人の接触場面における社会文化管理  
－言語の社会化の事例－

指導 宮副ウォン 裕子 教授

国際学研究科  
言語教育専攻  
20641409  
原 千亜

## 目 次

第1章	はじめに	
1.1	研究の背景	1
1.2	研究の目的	2
1.3	「言語の社会化」について	3
1.4	先行研究	4
第2章	調査と分析の方法	
2.1	調査方法	6
2.2	ミャンマーおよび調査協力者について	6
2.3	調査協力者と筆者の関係について	7
2.4	分析方法	8
第3章	調査結果の記述と分析	
3.1	調査結果	9
3.2	記述と分析	10
3.2.1	アイデンティティ	10
	①MM1、MM2、MM3の事例	
	②MF1の事例	
	③MM3の事例	
3.2.2	職場環境におけるインターアクション	16
	①MF2の事例	
	②MM1の事例	
	③MM3の事例	
3.2.3	日本語学習	22
	①ストラテジー	
	②学習リソース	
3.2.4	日本語母語話者とのインターアクション	27
	①MM1の事例	
	②MF2の事例	
	③MM3の事例	
3.2.5	社会・文化への評価と態度	32
	①MM3の事例	
	②MM2の事例	
	③MF2の事例	
第4章	総合的考察	

4.1 考察①「アイデンティティ」	36
4.2 考察②「職場環境におけるインターアクション」	37
4.3 考察③「日本語学習」	38
4.4 考察④「日本語母語話者とのインターアクション」	39
4.5 考察⑤「社会・文化への評価と態度」	40
第5章 まとめと今後の課題	
5.1 本研究でわかったこと	41
5.2 今後の課題	4

## 第1章 はじめに

フォーマルな学習機会を持たない地域日本語教室のミャンマー人学習者たちは、日本社会で日本語をどのように習得しているのだろうか。学習者たちが日本という外国社会において、人や言葉とどのような相互的関わりを持ち、それは日本語の習得にどう影響を与えているのか。ひいては、一個人が異文化社会の中で、その社会の一員として「自分らしく」生きるとはどういうことなのか。在日ミャンマー人の「言語の社会化」の事例を、エスノグラフィックな視点から明らかにする。

## 第2章 調査方法

2006年9月から2007年4月に掛けて、日本語教室に在籍するミャンマー人学習者5人に対し、来日から現在までのネットワークについて半構造化インタビューを行った。調査協力者にはインタビュー前に、調査内容について、「日本に来てからの日本人とのコミュニケーションや日本語の勉強について話してください」と説明した。

ネウストプニーの「言語管理理論」では、インターアクションには、言語能力、社会言語能力、社会文化能力の三つのレベルがあるとされている。本稿では、その中でも社会文化能力に着目し、接触場面における「社会文化管理」を通して、協力者たちの「言語の社会化」を考察する。

## 第3章 記述と分析

インタビュー・データをカテゴリー化したところ、「アイデンティティ」「職場環境におけるインターアクション」「日本語学習」「日本語母語話者とのインターアクション」「社会・文化への評価と態度」の5つに分けられた。これら进行分析したところ、協力者たちが接する環境の中で、正式なメンバーとなるための言語の社会化が行われていたが、そこでは協力者の個別的な意識に基づく「社会文化管理」が行われていることが明らかになった。

## 第4章 総合的考察

地球規模での人の移動に伴い、世界中で異質なもの同士の接触が増加している。そこでは、同化の意味でなく、その社会やコミュニティの一メンバーとして適切に振る舞うこと、つまり「言語の社会化」が求められる。多言語多文化社会における日本語教育には、そのための社会文化能力の育成がより重要になると考える。

## 第5章 まとめと今後の課題

協力者のアイデンティティは、「在日ミャンマー人」という一括りの枠ではなく、一人一人

異なっており、ディアスポラ的な移動に伴って変化するハイブリッドで暫定的なものであった。そして、どのようなアイデンティティを持っているかが、インターアクションの個別性の一要因であった。協力者たちは様々な領域でネットワークを構築し、そのネットワークとの相互作用を通して「言語の社会化」を図っていた。そこでのインターアクションには、個々の社会文化能力が深く関わっており、それは、日本社会という異文化社会をどう捉え、その中でどう生きるかということに通じていた。

日本滞在が長期化するミャンマー人たちには、子供の進学や継承語教育など新たな問題が浮上してきている。より地域社会に密着した生活者としての在日ミャンマー人へ視点を向けた研究が必要になっていると考える。

## 参考文献

- 石塚美枝 (2007) 「リソースを考える」『自律を目指すことばの学習』凡人社 (pp78-96)
- エレン・ナカミズ (2001) 「移民とことば」『応用社会言語学を学ぶ人のために』世界思想社 (pp100-107)
- 岡本能里子 (2004) 「ことばの力を育む」『人生を変える生涯学習の力』(pp95-135)
- 小川早百合・村岡英裕・備前徹・足立祐子・佐々木倫子 (2003) 『『社会文化能力』の捉え方』『日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成 論文集 第3巻』国立国語研究所
- 小川貴司 (2002) 「日本文化論と日本語教育」『ことばと文化を結ぶ日本語教育』凡人社 (pp204-217)
- オックスフォード.L.レベッカ (1994) 『言語学習ストラテジー』宍戸通庸・伴紀子訳 凡人社
- 恩村由香子 (2003) 「ことばと民族・国家」『新世代の言語学 社会・文化・人をつなぐもの』くろしお出版 (pp169-219)
- 小池生夫他 (2003) 『応用言語学事典』研究社
- 迫田久美子 (2002) 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
- 佐々木倫子 (2002) 「日本語教育で重視される文化概念」『ことばと文化を結ぶ日本語教育』凡人社 (pp218-234)
- 佐々木倫子 (2006) 「パラダイムシフト再考」『日本語教育の新たな文脈』アルク (pp259-282)
- 徐京植 (2005) 『ディアスポラ紀行ー追放された者のまなざしー』岩波新書
- 戴エイカ (1999) 『多文化主義とディアスポラ』明石書店
- 西原鈴子 (2003) 「外国人とのコミュニケーション」『朝倉日本語講座9 言語行動』朝倉書店 (pp157-173)
- J.V.ネウストプニー(1995a) 「日本語教育と言語管理」『阪大日本語研究』7号 (pp67-82)
- J.V.ネウストプニー (1995 b) 『新しい日本語教育のために』大修館書店
- 浜田麻里・林さと子・福永由佳・文野峯子・宮崎妙子 (2006) 「日本語学習者と学習環境の相互作用をめぐる」『日本語教育の新たな文脈』アルク (pp67-102)
- 林さと子他 (2006) 『ことばを学ぶ一人ひとりを理解する 第二言語学習と個別性』春風社

- ホール、ステュアート (1998) 「文化的アイデンティティとディアスポラ」小笠原博毅訳『現代思想』26-4号 (pp120-140)
- 箕浦康子『フィールドワークの技法と実際』(1999) ミネルヴァ書房
- 宮副ウォン裕子 (2004) 「教室内と教室活動をどう結ぶかー香港の経験からー」『日本語教育国際大会予稿集』(pp10-15)
- 村岡英裕 (2006) 「接触場面における社会文化管理プロセス」『日本語教育の新たな文脈』アルク (pp172-194)
- 八木真奈美 (2004) 「日本語学習者の日本社会におけるネットワークの形成とアイデンティティの構築」『質的心理学研究』第3号 (pp157-172)
- Zuengler, J & Cole, K.M. (2005). "Language Socialization and Second Language Learning" *Handbook of Research in Second Language Teaching and Learning*. London: Lawrence Erlbaum Associates